

令和5年度 市政に関する市民懇談会「西那須野地区」概要

【日 時】 令和5年7月6日（木）午後2時～3時20分

【場 所】 西那須野庁舎301～303会議室

【参加人数】 34人

【市出席者】 市長、両副市長、企画部長、総務部長、保健福祉部長、子ども未来部長、
企画政策課長・課長補佐・情報戦略担当（事務局）

【テーマ】 ①まちの持続的発展のために
②誰もが生き生きと暮らすために

【意見交換（要旨）】

■テーマ① まちの持続的発展のために

参加者：移住定住に関して、就職口がないと首都圏の企業に就職をしてしまうので、企業の誘致を早急にやっていただきたい。

参加者：工業団地を整備すれば、人口も増えて地域が盛り上がる。

参加者：市独自の取組として、独身者への増税や、子どもへの手当の支給などはどうか。

市：市の魅力の発信に加え、人々が来たくくなるような施策が大切。例えば、環境への取組が全国に知られるようになり、ベンチャー企業から声がかかるようになった。注目されると企業誘致にもつながる。

参加者：DXの推進体制として、どういった組織でどういった人材を集めて検討をしているのか。組織の中に市民の代表を入れて意見を聞いていただきたい。

市：外部の有識者として、ベンチャー企業代表の方など専門家の皆様と定期的に意見交換をしている。様々なデジタル技術を、市民生活にフィードバックしていきたい。

参加者：ICTを活用して、高齢者の見守りなどのシステムを市で構築できないか。

参加者：納骨堂のデジタル化など、DXによる終の棲家まで考える必要がある。

参加者：除草や伐採した枝などをもらって、たい肥化している。高齢者の問題についても関係機関や民生委員と話し合っている。誰かが積極的に行動するなど、土台を作る必要がある。企業誘致については、市出身の関係者などの繋がりを使うことも必要。

参加者：地域の会長が変わっても、誰が会長になっても、カバーするのがDXだと思う。

市：高齢者のDXを使ったフレイル予防関係について、2年前に東電とタイアップして、センサーを使った検知の実証実験を行った経緯がある。今年度、新たな取組として、サンプル数を増やして実証実験を行う予定。

■テーマ② 誰もが生き生きと暮らすために

参加者：結婚サポート事業について、結婚後も、家賃や子育てに関する特典など、継続したサービスがあるといい。

参加者：公共交通について、玄関から目的地まで、目的地から玄関までという形を市に提案している。貧困対策にも繋がるし、老老介護から認認介護の時代になり、認知症予防のためにも外出しやすい環境の整備が必要ではないか。

参加者：子どもの貧困対策とヤングケアラーについて、全国的なパーセンテージ及び市の状況は、

参加者：貧困対策等、日本の行政は対処療法にすぎない。抜本的な政策が必要。貧困は政策で何とかするしかない。

市：ヤングケアラーについては、昨年度の県の調査結果によると、小学生で8人に1人ぐらい。ケアラー協議会において、関係者・関係機関で支援体制等について検討している。子どもの困窮については、4年前の生活実態調査結果によると、本市は全国平均よりも少し高めだった。近年、子ども食堂の開設も増えてきており、市でも運営等に対する助成を行うとともに、医療費の助成や子育て応援券などで支援をしている。